

豊かな実りは自然の土壌から 『自然環境農法栽培』



アープ・トーマス・オルガ菌と共に土づくりから
土づくりは、作物を健康に育てる基本です。

この基本を大切に当社は自然環境農法を推進致しております

キュウリ栽培の基本的な使用方法

使用方法 (10a 当たり)

目的	使用時期	通常使用方法
初期からの土壌改良に	作付け 1～2ヶ月前より	堆肥や基肥散布時に(例:源肥 10～30袋・ミネラルこんぶ 5～10袋) トーマスくん 10～150 散布耕起し、土壌含有水分を60%位にし。ビニール養生する。(2～3年目、土壌形態が安定して来たら散布量を最大で50%位迄軽減して行っても十分です。) 注、病害発生の際増しに。
栽培期間中からの使用	随時	栽培中トーマスくんと宝水を初回 3～40 ずつ混合して葉面又は灌水チューブ等で散布を、20～30日周期で2～3回繰り返しながら健全生育と土壌改良効果を促して行く。
栽培期間中の共通使用		30日前後周期でトーマスくんと宝水を 1～20 混合で繰り返して行くと良い。(病虫害予防と樹勢バランスの整えに) 樹勢が強い時(トーマスくんだけ): 弱い時(宝水を多目に)

露地の散布は、水 100～150 程度の水で、均一に土が湿った状態の方が良いです。

施肥関係

- ※ 現行の施肥方法で良いですが、化成肥料併用の方は2～5割程度少な目にして下さい。
- ※ 堆肥等の有機質投入は、炭素率を整える事は養分バランス面、品質の均整化、収穫面にも関係しますから、一番の注意事項です。

微生物は

- ※ 堆肥等の有機物や、土中の残渣を分解しながら繁殖する事により多種の養分をつくり出すと共に、土壌中を浄化する事により病虫害の発生を抑制します。
- ※ 微生物資材は、ただ投入するだけでなくいかに繁殖して効果を生み出すかですから、水分・堆肥のバランスを良くし使用効果を最大限に発揮させて下さい。

